保護者の皆様へ

千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

千葉大学子どものこころの発達教育研究センターでは、「不安への対処力を養う予防教育プログラム「勇者の旅」の学校現場における授業実践効果の検討」に関する研究を行っています。学校現場におけるこころの健康問題の予防教育に役立てることを目的に、この研究ではお子さまの自記式質問紙（アンケート）データなどを利用させて頂きます。質問紙の情報等が、この研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

１．研究課題名

「不安への対処力を養う予防教育プログラム「勇者の旅」の学校現場における授業実践効果の検討」

２．研究の意義・目的

この研究は、こころの健康づくりプログラム「勇者の旅」の前後に実施する質問紙調査のデータを、日本全国の小中高校生の皆さんから集めることにより、「勇者の旅」の授業実践効果を検証することを目的にしています。こころの健康プログラム「勇者の旅」は、“認知行動療法”の考え方をもとに、子ども達が不安への対処力をつけることを目指した授業のことです。認知行動療法は、子どもから大人までの、不安やうつの問題を減らすことに有効であるといわれ、その効果は科学的に認められています。認知行動療法の考え方を取り入れた予防プログラムも、世界各国でその効果が実証されつつあり、子どもの精神的健康を高め、安心して生活することに貢献しています。日本ではまだ研究がスタートしたばかりですが、予備的研究など複数の研究で「勇者の旅」プログラムの不安低減効果が確認されています(Urao et al., 2016; 2018; 2021; 2022)。大規模かつ継続的な調査研究を実施して「勇者の旅」プログラムの効果を確かめることは、日本全国の子ども達のこころの健康を育み、不安症やうつ病などの精神疾患を予防することにつながるものと考えています。

３．研究の方法

予防教育の一環として、小中高等学校に通う特定の学年（学級）の児童生徒に「勇者の旅」プログラム（全 10 ステージ）を受けてもらいます。授業は、「勇者の旅」指導者養成 6 時間ワークショップを受講した学校の先生に、ワークブックに則した授業を実践していただき、児童生徒にはホームワークにも取り組んでもらいます。

プログラムを受ける前には、質問紙調査研究への協力を依頼します。また、比較対照群として、「勇者の旅」プログラムの授業を受けずに他の授業を受けている別の学年（学級）の児童生徒にも、

同じ質問紙調査研究への協力を依頼します。

質問紙調査実施のタイミングは、プログラムの開始前と終了時、3ヶ月後フォローアップ時の計3回になります。児童生徒には、スペンス児童不安尺度(SCAS -C : Spence Children’s Anxiety Scale for Children)および不安に関するオリジナルアンケート（全15項目）にご回答いただきます。

アンケートに要する時間は1回20分程度です。質問紙データは、氏名等の個人情報を含まない電子データとして、千葉大学内専用 Google workspace のサーバへ直接送付され、解析されます。

質問紙調査は研究として実施されますので、ご同意いただける場合のみ、研究へのご協力をお願いします。

４．個人情報の取り扱いについて

本研究では、氏名などの個人情報が千葉大学に送付されることはありませんが、送付されたデータは、外部に洩れることのないように厳重に管理します。電子データを千葉大学専用 Google workspace サーバから取り出した際には、千葉大学子どものこころの発達教育研究センター内の専用ハードディスクに保存し、パスワードをかけ、鍵のかかる棚で保管します。研究成果の発表にあたっては、学校名や個人が特定されうる情報は、一切公表しないこととします。

５．研究に調査結果などを利用して欲しくない場合について

研究にご協力いただけない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。（ご協力いただけない場合でも、お子さまは研究に参加するお子さまと同じ授業を受けることができ、不利益を受けることは一切ありません。）

文部科学省･厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関　　：千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
本件のお問合せ先：千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
特任講師　浦尾悠子　　センター長　清水栄司
０４３（２２６）２９７５　内線７９５５

※本文書は「勇者の旅」ホームページに掲載されています。